

国語科 学習指導案

貝塚市立中央小学校

1. 日 時 令和7年11月27日(木)第5時限 13:40~14:25

2. 場 所 第6学年1組教室

3. 学年・組 第6学年1組(32名)

4. 単元名 「本は友だち 私と本」 (使用図書・教科書:光村図書「国語6年」 および各自の推薦図書)

5. 単元の目標

【指導要領:知識及び技能(3) 我が国の言語文化に関する事項 オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくこと】

- ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知(3)オ)
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思C(1)オ)
- ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思C(1)カ)

6. 単元で取り上げる言語活動

主に、ミニビブリオバトル(一人 3分発表、評価1分、交流タイム1分、質疑応答1分、)

- ・読書体験をもとにしたスピーチ
- ・聞き手としての評価・投票活動
- ・話し合い活動(質疑応答・感想交流)

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
発表者:読んだ本の内容を要点にまとめ、わかりやすく説明している。 聞き手:発表者の説明を集中して聞き、必要なことをメモしている。	発表者:聞き手の興味を引くように内容を取捨選択し、工夫して表現している。 聞き手:発表内容を理解し、自分の考えをもとに、質問や感想を伝えている。	発表者:積極的に発表や質問に参加し、読書への関心を深めている。 聞き手:発表で得た情報や気づきをもとに、次に読む本を選んだり、自分の読書に生かそうとしたりしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

(省略 当日配布資料に記載)

(2) 教材観

本単元では、これまでの読書生活を見つめ直し、読書教材を例にさまざまなジャンルやテーマへと読み広げたり、読書活動を通して本との関わりを深めたりしていくことを目的としている。そして、ビブリオバトルは、「人を通して本を知る、本を通して人を知る」活動であり、発表・傾聴・対話を総合的に育成できる学習である。自分の考えを整理し、発表する経験を積み重ねることで、論理的に伝える力や人前で話す自信を高めることができる。

さらに、本の紹介を通じて、読書活動の幅を広げるきっかけになる。読書活動を推進することにより、語彙力や表現力が豊かになるだけでなく、登場人物の心情理解を通して思考力や想像力、他者理解を育む効果も期待できる。

(3) 指導観

本学年の児童は、1学期、2学期を通して、単元に関連する並行読書活動を行った。また、自分が読んだ本を友だちに紹介する活動も授業内で積極的に取り入れた。特に2学期では、夏休みの宿題である読書感想文の題材を学級内で紹介したり、やまなし以外の宮沢賢治の作品を班で考え、発表したりする機会を設けた。また、ぼくのブック・ウーマンという教材を通して、多くの外国の翻訳作品を読み、意見や感想を友だちに伝える活動を行った。以上のように、教材を通して、数多くの種類の並行読書をすることで、児童の読書の幅を広げようとした。4年生のころからも一貫して、並行読書活動に取り組んでいる。本の要約や叙述をもとに、友だちと意見や感想の交流をしてきた。本の帯、ポスター、フリップづくりを通して、本の紹介をする活動も行ってきた。これらのように、児童の読書活動を推進していくために、授業を通して多くの本に出会い、親しむ機会を設けてきた。しかし、まだまだ読書への意欲関心が高いとは言えないのが現状である。

そこで、本時では、読書活動への関心をより高めるためにビブリオバトルを行うが、発表者だけの言語活動にならないよう、発表・質疑・投票という流れを大切に、聞き手も発表者も全員が参加できる活動にしていく。そのために、聞き手が真剣に発表を聞き、質問や感想を持てるようメモする用紙を配布する。また、質疑応答では、必ず数名が質問できるように工夫し、質疑や感想の意図をわかりやすく、明確になるよう言い換えたり、補助したりする。投票では、改めてどの本が「一番読みたくなったか」を基準に選ばせることで、聞き手の責任感と主体性を高める。

ふりかえりでは、聞き手が、発表者の良さや読みたくなった理由などを伝えることで、相互に学び合う姿勢を育てていきたい。今後も主体的に読書活動に参加しようとする意欲の向上を図るために、児童に「伝える力」と「聞く力」を身に付けさせ、学級全体で学ぼうとする協働性を高めていき、友だち同士でおすすめの本を紹介し合ったり、進んで多種多様な本を手にとったりして読書の幅を自分たち自身で広げていけるようにしていきたい。

9. 指導と評価の計画(全4時間) ◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

時	主な学習内容	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	紹介する本を選び、ワークシートに紹介メモを書く	◎	◎	○	<u>知技</u>: 読んだ本の内容や魅力を整理し、要点を押さえた紹介メモを書いている。 <u>思判表</u>: 聞き手を意識した構成や言葉選びの工夫がある。 <u>主体</u>: 自ら本を選び、紹介する意欲をもって取り組んでいる。 (原稿で評価する)
2	発表練習を行い、発表の工夫を共有する	◎	◎	◎	<u>知技</u>: 声の大きさや速さを調節しながら発表することができる。 <u>思判表</u>: 聞き手を引きつける伝え方・表情・態度・構成を工夫している。 <u>主体</u>: 何度も練習している。 (ロイロノートで録画したものを評価)
3	ビブリオバトル予選	◎	◎	◎	<u>知技</u>: 制限時間内で要点を押さえ、本の魅力をわかりやすく紹介している。 <u>思判表</u>: 質疑応答において、相手の意図をくみ取り、的確に答えている。 質疑応答で、疑問点や感想を明

					確にしている。 主体：聞き手として評価用紙に記入し、質問や感想を積極的に述べている。 友だちの発表をきっかけに、新しい本への関心をもつことができている。 (発表と評価用紙で評価)
4	ビブリアバトル決勝	◎	◎	◎	知技：発表の表現や構成を3時間目より高め、聞き手に魅力が伝わるように工夫している。 思判表：質疑応答において、相手の意図をくみ取り、的確に答えている。 質疑応答で、疑問点や感想を明確にしている。 主体：聞き手として評価用紙に記入し、質問や感想を積極的に述べている。 友だちの発表をきっかけに、新しい本への関心をもつことができている。 (発表と評価用紙で評価)

10. 本時の展開(4/4 時間目)

(1) 本時の目標

- ・読書を通して得た感動や発見を友だちと共有し、読書への興味関心を高める。
- ・読んだ本の内容や魅力を整理し、相手に分かりやすく紹介できる。
- ・聞き手として、評価し、本への疑問や感想を伝えることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・本の内容を要点だけに整理して伝えている。
- ・聞き手が読みたくなるように伝え方・表情・態度・構成を工夫している。
- ・質疑に積極的に参加している。

(3) 困難度査定とその対応策

- ・発表が苦手な児童に対しては、声の大きさや速さ、聞き手への目線、ジェスチャーなど、伝え方の工夫について事前に助言し、発表の質を高める。
- ・発表できない児童には、メモを見ながら発表するように助言する。
- ・聞き手として、質疑応答に不安を感じる児童には、あらかじめ予想される質問を考えて練習したり、教師が介入したりして、フォローする。
- ・質問が出にくい場合は、聞き手用の評価用紙から質問を考えさせ、質問を引き出す。
- ・発表や質問に積極的に参加できなかった児童には、ふりかえりの場で友だちの発表のよさなどを用紙に書き、別の形で参加できるようにする。

(4) 展開

	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 5分	めあて、ルールの確認 「ビブリオバトルを通して、読書の世界を広げよう。」	ルールの確認(発表→質疑→投票) 3分間のミニビブリオバトル 残り1分で鐘の合図 1分間の評価 1分間のペア交流タイム 1分間の質疑応答 〈交流の話し合いポイント〉 ①おもしろそうだったところとその理由 ②よくわからなかったところ、もう少し聞きたいところ(登場人物について、物語の展開について) ※本の結末や作品の核心部分についての質問は望ましくない	
展開 30分	ビブリオバトル実施 ①発表(3分) ②評価タイム(1分) ③交流タイム(1分) ④質問タイム(1分) 6分×5人 聞き手は、発表後1分間で評価シートに疑問点や感想などを書き込む		<u>知技</u> : 発表の表現や構成を3時間目より高め、聞き手に魅力が伝わるように工夫している。 <u>思判表</u> : 質疑応答において、相手の意図をくみ取り、的確に答えている。
まとめ 10分	投票(ロイロノートアンケート) チャンプ本の決定 ふりかえり交流	発表の評価ではなく、一番読みたくなった本を選ぶことを再度指示する。 ふりかえりでは、発表を聞いて、新たな気づきや、読んでみたいと思った理由を明確にし、これからの読書活動にどのように生かすかについて考えさせる。	質疑応答で、疑問点や感想を明確にしている。 <u>主体</u> : 聞き手として評価用紙に記入し、質問や感想を積極的に述べている。 友だちの発表をきっかけに、新しい本への関心をもつことができています。 (発表と評価用紙で評価)

(5) 本時における具体的な子どもの状況(※本時の評価規準に関わる場面において)

十分満足できる(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
<u>発表者</u> : 作品の魅力やおすすめる理由を簡潔にまとめ紹介し、質疑応答では、質問の意図を踏まえて適切に答えている。 <u>聞き手</u> : 発表を集中して聞き、発表内容を理解し、自分の考えをもとに、質問や感想を伝えている。	<u>発表者</u> : 作品の魅力やおすすめる理由を自分なりにまとめ紹介し、質問に対して自分の意見や考えを伝えている。 <u>聞き手</u> : 発表内容を理解し、自分の考えをもとに、質問や感想を評価用紙に書き表している。	<u>発表者</u> : 読み原稿を読みながら発表を進める。(読み原稿を紙媒体で用意する。) <u>聞き手</u> : 交流タイムで教師が介入し、評価用紙に自分の意見や考えを書くように助言する。

(6) ワークシート

【ピプリアバトルで盛り合おう 〜ぜひ、読んでほしい4ねん！選手権〜】	
名前 _____	
本の題名	作者
〈先生の読後感〉	
みんなへの質問 (絵種提示)	
自分のこと (性格、考え方、経験など)	
読んでほしい理由	
内容・あらすじ	
おすすめポイント おもしろポイント	
読んだ感想	
最後のQと答え	

ピプリアバトル評価シート

「一番読みたい本はこれだ!!」 名前()

1人目 _____さん	2人目 _____さん	3人目 _____さん
本の内容がよくわかった 1・2・3・4・5	本の内容がよくわかった 1・2・3・4・5	本の内容がよくわかった 1・2・3・4・5
おすすめポイントがわかった 1・2・3・4・5	おすすめポイントがわかった 1・2・3・4・5	おすすめポイントがわかった 1・2・3・4・5
内容がおもしろそう 1・2・3・4・5	内容がおもしろそう 1・2・3・4・5	内容がおもしろそう 1・2・3・4・5
おもしろそうかどうか、よかったかどうか、もっと聞きたいかどうか、読みたくなったかどうか	おもしろそうかどうか、よかったかどうか、もっと聞きたいかどうか、読みたくなったかどうか	おもしろそうかどうか、よかったかどうか、もっと聞きたいかどうか、読みたくなったかどうか
読みかいた本 (1・2・3・4・5)	読みかいた本 (1・2・3・4・5)	読みかいた本 (1・2・3・4・5)
読みたくなった本 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10	読みたくなった本 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10	読みたくなった本 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10

4人目 _____さん	5人目 _____さん
本の内容がよくわかった 1・2・3・4・5	本の内容がよくわかった 1・2・3・4・5
おすすめポイントがわかった 1・2・3・4・5	おすすめポイントがわかった 1・2・3・4・5
内容がおもしろそう 1・2・3・4・5	内容がおもしろそう 1・2・3・4・5
おもしろそうかどうか、よかったかどうか、もっと聞きたいかどうか、読みたくなったかどうか	おもしろそうかどうか、よかったかどうか、もっと聞きたいかどうか、読みたくなったかどうか
読みかいた本 (1・2・3・4・5)	読みかいた本 (1・2・3・4・5)
読みたくなった本 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10	読みたくなった本 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10
ふたあそび (発表が終わって、読書について)	

